



活動
Activity

リノベーションミュージアム冷泉荘
RENOVATION MUSEUM REIZENSO
福岡市博多区上川端町 9

関係者 — 吉原住宅有限公司、株式会社 スペースRデザイン

博多区上川端町で築54年を迎える冷泉荘は、昭和レトロの雰囲気を保持したリノベーション建築として高く評価できる。2011年1月には耐震改修工事も行っており、「福岡の古い建物を大切に考える実践(ビルストック活用)」を基本理念に、入居者による自主的なイベントや情報発信の場として活用されている。B棟1階にはレンタルスペースも用意され、様々なアート展示や各種講演会など、まちなかの交流場としても親しまれている。とかく「新しさ」が衆目を集めやすい現代の都市空間において、冷泉荘は「ひと」「まち」「文化」を大切に思う人々の精力的な活動によって、「古さ」を最大限に活かした「新しい」都市景観の可能性を示してくれている。(柴田委員)



屋外広告
Billboard

FUTATA THE FLAG
FUTATA THE FLAG
福岡市中央区天神3丁目

所有者 — 株式会社 フタタ
設計者 — 株式会社 サムライ、窪田建築都市研究所有限公司
施工者 — 前田建設工学株式会社 九州支店

渡辺通りと昭和通りがぶつかる交差点の北西の角地に立つ FUTATA THE FLAG は周囲の煩雑とした都市景観の中で強く主張することなく、それがかえって周囲の中でその存在を際立たせている。陽が落ちるとダークグレーの壁面部分は外部空間の中に消え、ガラス窓の中に整然と並んだスーツやシャツ、ネクタイが浮かび上がり、紳士服の店舗であることをさらに認識させる。その立地から、通りの様々な場所から意識されるが、建築と一体としてデザインされた屋上広告塔には時計の長針と短針が時間を刻み、派手な色や形態をまともせず、洗練されたその外装のデザインが紳士服量販店の広告としてだけでなく、北天神のランドマークとしても天神地区の都市景観に寄与している。(西川委員)



建築
Architecture

福岡大学病院新診療棟
FUKUOKA UNIVERSITY HOSPITAL
福岡市城南区七隈7丁目

所有者 — 学校法人 福岡大学
設計者 — 株式会社 日本設計
施工者 — 株式会社 竹中工務店

福岡大学病院は2011年1月、新診療棟を開院した。病院新館、福大プラザ、福大メディカルホールから成る当施設は、「驚く」をコンセプトとして開発されたという。シンボルともいえる北側正面のアトリウムは、長さ約100メートル、全面ガラスの3層吹き抜け空間。やわらかい自然光と眺望を院内に取り入れ、夜は街にあたたかな光を照らす。また、地下鉄の改札から新診療棟まで見事に直結した動線計画も、特筆すべき試みであり、随所に患者に優しい配慮が見られる。地域社会と高度医療を「繋ぎ」、周辺環境と療養環境を「繋ぐ」、「あたたかい医療」を基本理念とする福岡大学病院の、次世代への挑戦が感じられる施設開発である。(小野委員)



建築
Architecture

JR博多シティ
JR HAKATA CITY
福岡市博多区博多駅中央街1丁目

所有者 — 九州旅客鉄道株式会社
設計者 — 博多駅開発設計共同企業体
施工者 — 博多駅ビル(仮称)新築工事共同企業体

九州・福岡の玄関口である博多駅が、1963年に駅舎を移転して以来ほぼ半世紀ぶりに一新し、九州新幹線の全線開業とともに姿を現した。スッと横に伸びたスカイライン、白を基調とした透明感のある明るい印象、同時期に整備された駅前広場や街路との一体性など九州の中央駅としての堂々とした景観だ。最近の巨大建築が高層化し特徴を失いがちな中で、制約をむしろプラスに活かし、重厚さと現代性を併せ持つオリジナリティーあるデザインとなった。新しく生み出された「JR博多シティ」には年間1億5千万人以上の人が行き交い、国際都市 FUKUOKA を牽引するエンジンとして力強く回転し、巨大な都市のエネルギーを放込みながら、新しい福岡を内外に強く印象づけている。(伊藤委員)



活動
Activity

子どもの村福岡
CHILDREN'S VILLAGES FUKUOKA
福岡市西区今津 2017

関係者 — 特定非営利活動法人 子どもの村福岡、株式会社 田島正陽建築事務所

事情で実親と暮らせない子どもたちを、家庭的な環境のなかで育てる活動の拠点が「子どもの村」だ。NPO がさまざまなチャリティ活動を展開し、支援者を増やし運営している。「子どもの村」では、広い中庭を囲むように建てられた5軒の普通の一軒家に、それぞれ子どもたちと実親が生活している。住宅メーカーなどの企業や個人が寄付した異なる部材を用いて建てられたにもかかわらず、敷地内の建物には統一感があり、周囲の自然景観とも良く調和している。広い中庭は、各戸の住人が日々顔を合わせ、時には一緒にイベントなどを楽しむ近所付き合いの場として機能するだろう。複雑な事情を持つ子どもたち、実親たちにとって、互いのコミュニケーションが果たす役割は非常に重要だ。(池田委員)



活動
Activity

ブックオカ
bookuoka

関係者 — ブックオカ実行委員会

福岡の書店員、編集者、ライターなど本の魅力を良く知る人々が企画・運営しているまちづくりイベント「ブックオカ」は2006年から始まり7回目を迎える。「福岡が本の街に」をキーワードにトークショーやイベントが次々に開催され、中でも「一箱古本市」は、けやき通りの両側に、約100人の出店者が個性的な本と本棚を用意し、街を歩く人と本を通じて会話が弾む。この活動の魅力の一つは「本」に注目し活動を続けていること。そして多様な可能性を秘める「本」を介して人が集まることで、必然的に感度の高い場が生まれてくることに期待できる。市民が営む暮らしに寄り添って考える景観とは、建築物として存在しない「活動」においても、例えば、人生を変えるほどの出会いや夢を与えるような場であれば、都市景観の新たな魅力として捉えることができるのではないかと考える。(酒井委員)



屋外広告
Billboard

キャナルシティ博多 イーストビル
CANAL CITY HAKATA EAST BUILDING
福岡市博多区祇園町 9

所有者 — 福岡地所株式会社
設計者 — 株式会社 日本設計
施工者 — 株式会社 フジター級建築士事務所

キャナルシティ博多イーストビルは、はるか駅前通りからキャナルシティ博多へのゲートウェイ。テナントの広告は緑化された上層部の壁面の中に設置されている。ロゴ・マークのみを使ったミニマムな広告は「緑の余白」の中で視覚的な秩序を保っており、またそれらは、歩行者レベルにある店舗ディスプレイとは一線を隔てた上層部において、建築物全体として美的な景観を生み出している。スマートフォンを建物に向けて関連情報が得られる今日、もはや屋外広告に過剰な文字情報は不要である。ミニマムな情報ユニットと、壁面緑化された建築との安定感ある一体化。イーストビルは、今日のメディア環境を前提とした建築と広告の調和を見事に実現している。(井上委員)



ランド
スケープ
Landscape

減築による街並み修景
Improvement of Urban Beautification
by Reductive Renovation
福岡市中央区

所有者 — 個人 2名
設計者 — 有限会社 Y設計室
施工者 — 有限会社 岡部工務店

都心密集住宅地にある狭小敷地に建つ住宅改修なのだが、ただの改修ではない。この地域も高齢化が進み、居住者にとっては昔のように広い住宅は必要ない。そこで、改修時に床面積を減らす減築によって採光や通風といった居住環境を改善し、同時に道路に面して作った庭の縁によって都市景観にも寄与する選択をしたのである。さらにこれは2つの敷地にまたがっている。最初の改修が好評だったために、連鎖的にお隣も計画することになったという。人口も経済も縮小を始めた現代にあって、既存の建築資産をどのように運用するかは緊急の課題である。この事例は、あまりお金をかけずとも知恵次第で街が良くなる可能性を示している。サステイナブルとはまさにこのことである。(末廣委員)